

第2回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和2年7月31日(金) 午後2時00分～午後4時50分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、荒木委員、菊地委員、加茂委員、山崎省委員、倉西委員
藤田委員、吉本委員、平間委員、小玉委員、遠藤委員、吉中委員
飯沼委員、黒木委員、山崎留委員、岩井委員 (計16名)
※欠席委員 石川委員、松村委員、柿崎委員、林委員 (計4名)
<事務局>稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長
川上経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長
藤野財政課長、関澤企画振興課長、入交企画振興係長
<受託事業者>フラノデザイン(株) 中村、大曾根、村上
<オブザーバー>道総研 福井地域研究部長

1. 開会(午後2時00分)

- ・事務局より、欠席者及びオブザーバーについて報告

2. 市長挨拶

- ・7月28日に北海へそ祭りをウェブ上で開催したところであります。映像や音声の課題も見られたが、取組の姿勢は51回続けてきた市民の絆、人と人との繋がりは大切なものであり、未来に続くものと考えている。
- ・富良野市の特徴である“へそ”“スキー”“ワイン”の取組は、民間と行政が協力してできてきたものであり、そうした遺伝子を持続可能なまちづくりに活かしていきたい。
- ・検討いただく総合計画は、そうした土台となるものであることから、委員皆様のご協力をお願い致します。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

3. 議題

【北会長】

- ・議事に移りますが、第1回有識者会議に引き続き、フラノデザイン株式会社にコーディネートをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

(0) 本日の目的等

資料1に基づき、前回の振り返り、総合計画策定のプロセスの現在地等について、フラノデザイン 大曾根より説明

(1) 将来人口推計について

資料2に基づき、北海道立総合研究機構北方建築総合研究所 福井部長より説明

【荒木委員】

- ・社人研の社会移動率に富良野市の出生届実態による推計値を出しているが、現状の住民基本台帳の実態に合わせて推計値を算出する必要があるのではないか。
- ・現在の人口ビジョンは見通しが甘く、全然違う結果となっているので、きちんとした予測が必要ではないか。
- ・納得できるデータを提出してもらい、それをもとに議論していきたい。

【道総研 福井】

- ・富良野市からはここ最近の出生数と転出入者データを提供してもらい、出生数と社会移動率を算出し、推計値としている。
- ・将来的には社会移動率が更に低くなることも想定されるので、富良野市と相談し、様々な設定を考えてみたい。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・総合戦略を考えていく時に大事になってくるといいますので、引き続き、データのフラッシュアップを進めていきたいと思っております。

(2) 基本構想（原案）について

資料3及び別紙に基づき、フラノデザイン 大曾根より説明

【フラノデザイン 大曾根】

- ・基本構想案の説明を聞いて、委員のみなさんが「特に大事だと思う箇所や表現」「心が動く箇所や表現」や全体を通じて感じたことをポストイットに記入していただきたいと思います。
- ・委員お一人ずつ、どこをピックアップしたか発表してもらいたいと思います。

【飯沼委員】

- ・「共創」はすごく大事なことである。
- ・それを進めていく上では「WA」が必要と感じている。

【岩井委員】

- ・「ひとのWA」に書かれている「支援・応援し合う」、「自然のWA」に書かれている「美しい自然環境を未来へつなげる」が良いと感じた。

【黒木委員】

- ・「美しいのその先へ」のワードが宣伝や広告に使えるフレーズと感じた。
- ・誰かではなく、みんなでつくること大事だと思う。

【小玉委員】

- ・富良野の魅力は美しい自然だと思うので、その自然を守り続けるが大事だと思う。

【山崎省委員】

- ・「美しい」「WA」「エコ」という言葉が良いと感じた。

【遠藤委員】

- ・「WA」は人と人だけではなく、地域と地域の「WA」も大事だと思う。
- ・「美しい」は人によって差別用語になることも考えられる。

【吉中委員】

- ・「ひとりが輝く」部分で、一人ではできない、一人にしないことが大切だと思う。
- ・子や孫に誇れるまちづくりが気になっている。

【荒木委員】

- ・「ひと」「しごと」「まち」の順番が大事だと思っており、物事を捉えるとき「ひと」がいて、その「ひと」たちは「しごと」をしなければ生活ができない、そして「まち」が魅力的なら、良い「まち」になると感じている。
- ・データによる実態を把握し、それをもとにどういう施策を打つのかといったときに、総合計画は行政が何をするかであり、総合戦略は官民一体となって取り組むものであったが、今回の総合計画は共創で進めていくことは一番欲しかった精神である。

【藤田委員】

- ・富良野らしいイメージが良く伝わっている。この町に住む人、この町に来る人にとって大事なことが良く表現されている。

【山崎留委員】

- ・4つの「WA」が重なるイメージが良いと感じた。
- ・「クリエイティブ」という言葉に未来を感じる。

【加茂委員】

- ・「美しいのその先へ」のフレーズが心に響いた。

【倉西委員】

- ・「ひとのWA」が一番だが、「しごとのWA」で新しい仕事を創り出すというのは、今の状況から将来に向けて大切と感じる。

【吉本委員】

- ・「しごとのWA」が大事だと思う。生産性の低さは課題であり、そこを改善していくことが町にとって大事だと思う。

【平間委員】

- ・「美しいのその先へ」「富良野には美しいがいっぱいある」について、自然が美しいのはもちろんだが、ごみ問題の先進地であり、「美しい」に感動した。

【菊地委員】

- ・「ひとのWA」で書かれている「ひとりひとり、違っていい」が、個性を大切にしていけるまちづくりと感じた。

【北会長】

- ・「創る」「感じる」は人の力を思わせるフレーズであり、そうしたことをつなげるのが「共創」と感じた。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・それぞれにとって大事なワードをいただいたので大切に扱っていきたいと思います。
- ・ここからはフリーで、基本構想案やデータなど全体を通してご意見などをいただければと思います。

【荒木委員】

- ・データは基礎となるので、別紙資料の社人研予測は国勢調査がベースになっているが、住民基本台帳の数値に置き換えて分析し、それをもとにどういう施策が必要か考えていかなくてはいけない。人は見たくない現実を見ないようにするので、見たくない現実を見て、それをどうクリアするかを考えていかなくてはいけない。
- ・「WA」の表現が気になる。昔の日本は「和」と言われていた歴史もある。平仮名の「わ」を加工するなどの方法もあるのではないか。

【黒木委員】

- ・ビジョンの候補①から④があるが、こういった場面で使うことになるのか。
- ・宣伝や広告に使うには長いと感じるので、シンプルに「美しいのその先へ」が引き付ける感じがするし、副題として他の文があってもいいと思う。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・ビジョンは、総合計画の上位にある形式上でてくるものであり、まちづくりに関連する場面では、教育やブランディングなど色々な使い方があっていいと考えています。

【荒木委員】

- ・4つの「WA」の中の順番はいいが、実は中身的に一番大事なのは「しごと」であると考えている。経済活動が止まると市民や行政も収入が減ることになるので、一定の収入がなければいけない。まち全体として、みんながどれだけ収入を持てる状況を考えるがベースとなる。それをどうやるかというときに夢を語って、その夢に向かって実現する、それを自分たちでどれだけできるかである。仕事がないと、収入がないと生きていけないことを根っこに持ってほしい。
- ・ふるさと納税について、収入を得られる手段だと思うので、民間に任せるのも1つの手法だと思う。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・プロジェクトチームの中でも、稼ぐや付加価値を高めるなどの議論はしており、民間や個人だけでなく、行政も未来の投資に必要な財源として抑え、お金の循環が生まれる形が大事と考えているところです。

【岩井委員】

- ・コンセプトから有効な手立てを打っていくと思うが、子育てや移住はコンセプトのどこに当てはまっていくのか。予算はどうなるのか。

【フラノデザイン 大曾根】

- これから具体的な議論に入っていくことになりが、子育ては、自然・まち・しごと・ひとの全部のコンセプトにまたがってくることになると思うので、枠を越えた中で考えていくことになると思います。
- 具体的な施策の段階に4つの「WA」を意識して取り組んでいくことになり、予算はそれぞれの施策についていくことになると思います。

【荒木委員】

- 有識者会議が計画策定だけでなく、施策にも関わっていきたいと思うところである。
- 委員の皆さんにお願いしたいのは、具体的な施策をどんどん提案してもらいたい。

【吉中委員】

- ビジョンには、わかりやすさ、誰が見ても一目でわかることが必要ではないか。

【荒木委員】

- 富良野は「美しい」と思われているのか。富良野の良さは「人」であるとよく言われ、人とのふれあいがある場所である。人とのつながりが評価されている部分があるので、富良野に関わってくれる人の思いは「美しい」という言葉でいいのか。
- 「その先へ」は、どうやって進むのかであり、うれしく思う。

【藤田委員】

- 「クリエイティブ・エコシティ・フラノ」は、昔、「自然環境都市ふらの」というのがあり、似ている気がする。
- 北海道で使っていた「試される大地」のようなフレーズが気に入っており、そういった表現がいいのではないか。

【遠藤委員】

- 富良野市には個別計画がたくさんあるので、どんな計画があるか示してほしい。

【岩井委員】

- 「共創」という言葉がいいので、そのまま使うのはどうか。

【飯沼委員】

- 「美しい」は抽象的で、いいイメージがない。
- 富良野の人や大地の何が魅力かを考えたときにヒントがある気がする。
- 総合計画と個別計画をきちんとリンクさせる必要がある。

【山崎留委員】

- 「美しいのその先へ」が何なのかわからない。
- 富良野の漢字を当て字にして考えるのも1つアイデアだと思う。

【フラノデザイン 大曾根】

- ビジョンを、こういう町だと明確に打ち出す方がいいのか、探求して考えていく方がいいのかで、今回は後者を選択して提案したところです。
- 今回のビジョンを出した背景には、色んな人や世代、共創で力になってくれる人たちに引っかかる思いを込めて考えおり、包含的にならないように気を付けてきたところです。

【荒木委員】

- 大事なのはコンセプトであり、コンセプトを表現するのがビジョンやキャッチフレーズではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- 人口について色々なデータがありましたが、委員の皆さんは、どういう見立てでしょうか。
- 人口減少のメカニズムとしての構造のポイントをどこに置くか、これまでやってきたことの限界、今やっていることの強化、どんな人に来てもらったり関わってもらいたいのか、どんな循環を生み出すと結果として人口によいのか、これらについて委

員お一人ずつコメントをいただければと思います。

【飯沼委員】

- ・人口を増やすことは厳しいと思う。
- ・人口が減少していく中で、継続した富良野市のあり方に焦点を当てる必要がある。
- ・町が消えないために、どう継続していくか。継続のためには、集中と選択がうまくてくる。

【岩井委員】

- ・人口減少は、子どもを産む女性の数がキーポイントになるし、子どもが生まれた後、富良野近郊に家を建てて富良野に通う人が多いことがわかっているので、そこへの対策が必要ではないか。
- ・子どもを産むためには、産婦人科などの充実も必要ではないか。

【黒木委員】

- ・仕事や遊ぶなど、それぞれの年代ごとの居場所が必要ではないか。
- ・演劇を活用した特徴ある取組が必要ではないか。

【小玉委員】

- ・産婦人科や医療費など、安心して生み育てられる、安心して働ける環境づくりが必要ではないか。

【山崎省委員】

- ・子どもを学校のある地域のみinnで育てる環境づくりが必要ではないか。

【遠藤委員】

- ・転出入者の6割が仕事の都合であり、特に公務員が多いので、教員なのか国の機関なのかを分析し、富良野に如何に住んでもらうかを考えていく必要がある。

【吉中委員】

- ・新規就農で入ってくる人たちが、自分で場所や作物を選べないので、来てくれる人が選べる状況が必要ではないか。
- ・現状、借金でやめる農家は少ないので、経済的自立ができる農業だということを前面に押し出せる環境づくりがある程度必要ではないか。
- ・富良野の高校を卒業した生徒が富良野に残れない状況があるので、産業や職など重点的に改善する必要があるのではないか。

【藤田委員】

- ・居住人口を増やすことは大切な事と思うが、交流人口や関係人口など富良野に興味ある人たちを取り込んでいくことも考え方として大事なことはないか。

【山崎留委員】

- ・人口のどこに焦点を置くかで、ビジョンとして増やしていくのか、減少を受け入れるのか、きちんとした議論が必要ではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・プロジェクトチームの中では、人口の総数だけで見ていくことは意味がなく、ターゲットを絞ったり、魅力ある取組で結果として減少が抑えられたり、と取り扱いは方を考えているところです。

【倉西委員】

- ・地方創生の最終目標としては、人口減少を克服すること、地域経済を活性化することだと思っている。
- ・進学後などのUターン施策を何もしないと減少の一途となるので、戻って来られる状況が必要で、事業所を減らさないための事業承継や起業しやすい環境など対策が必要ではないか。
- ・就職先としての企業誘致、観光関連の専門学校誘致など仕掛けづくりの中で、人口を減らさないように経済をまわし、みんなが幸せになれる取組が必要ではないか。

【吉本委員】

- ・何で人口が減っては駄目なのかを考えたときに、経済が回らなくなることが大きいと思う。
- ・日本の人口総数が変わらないとしたときに、地域による人口の奪い合いになるのではないか。

【平間委員】

- ・企業誘致に取り組んだり、フランスの出生率が向上した取組を参考にしたりするのはどうか。

【荒木委員】

- ・フランスの取組は、結婚していない子どもでも全員を社会的に子どもと認めることを法律で規定しているので、日本に当てはめるのは無理と考える。
- ・人口減少のカーブのどれを選択するのか。現実として人口は減少するが、どの程度だったらいいのか。将来の実現可能な人口に向けて、みんなで努力することが必要である。
- ・ターゲットに向けてどんな施策を打っていくのか。子どもの出産、子育て世代の流出、進学による流出、地元への就職、移住やテレワークへの対応など細かな施策により社人研予測を変えた町もあるので、町の未来は変えられると考えている。
- ・有識者会議資料を2・3日前にはいただきたい。会議前に目を通す、通さないでは違うと思いますのでお願いしたい。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・色々ご意見いただきましたが、一緒に考えるところは一緒に考えながら、今後の進め方等に反映していきたいと思います。

【北会長】

- ・委員皆さんからの意見を引き出しながらの進行ありがとうございました。

4. その他

- ・特になし

5. 今後の予定

- ・今後の有識者会議日程について事務局より説明

6. 閉会（午後4時50分）

【北会長】

- ・長時間に渡り、慎重なご議論、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。
- ・これらをもとに、少しずつ総合計画が積み上げていくこととなります。
- ・新型コロナは、人と人との距離をとり感染拡大防止の取組ではありますが、大事なところは今日のテーマになっていた、人とのつながり、人とのWAということを改めて気付かせてもらいましたので、今後ともご協力をお願い致します。